生活に何かと役立つ連載コラム

つぶやきがんちゃんの

生活知恵袋

せいかつちえぶくろ

Vol. 56

今月のテーマ　年初には家計チェックを…！ part2

先月号では、家計の資産と負債の実態を確認するべく、貸借対照表の作成方法を取り上げたが皆さんお作りいただいただろうか…？正月気分でそれどころではなかったという方も多いだろうが、何とかチャレンジしてもらいたい。

純資産（資産合計ー負債合計）が、プラスであることが望ましいが、マイナスの世帯も少なくないと推定される。単に現状がプラスだから良いというものでもなく、将来どう推移するのかが重要で、貸借の現状が見えたところから、将来的な視点に立った中長期の予想を立てなければならない。そのためには、足元の家計収支を確認するところから始めたい。

近年の私たちの暮らしは、目覚ましい技術革新により、生活の水準は飛躍的な進歩を遂げてきた。自動車は環境にやさしく、より安全に、より快適になってきた。ついこの間までは、携帯電話さえ特別な存在であったのに、今や小学生も持っている。便利さを問題にするわけではないが、その代償として生活費そのものをも、ジワリジワリと高騰し、生活費の中に堂々と居座り、高止まりさせてしまった。その負担の大きさは言うまでもないと思うのだが、皆さんはどうお感じだろうか…？

車にしろ、携帯電話にしろ、今更後戻りできない。その分、所得が伸びているのであれば良いのだが、伸び悩む中にあって、日本における近年の家計貯蓄率は下がり続けている。主要先進諸国のアメリカ、イギリス、フランス、ドイツの中で最下位という状況だ。（※「家計貯蓄率の国際比較」内閣府：国民経済計算年報）

「アベノミクス」頼みで、所得の増加を期待したいものだが、ただ待ち続けるわけにもいかない。高コスト社会の中で変化している収支構造を、改めてチェックしなければならないだろう。

今月号のテーマは、先ずは現状の収支をチェックし、年間予算の仕分けをすることを目的としたい。

齋藤廣勝（さいとう　ひろかつ）
株式会社トータルライフサポート代表取締役
・CFP®サーティファイドファイナンシャルプランナー
・1級ファイナンシャルプランニング技能士
・日本商工会議所　年金・退職金等認定講師
・住宅ローンアドバイザー
・金融広報アドバイザー

●貸借対照表のおさらいとチェック

前号で解説した貸借対照表を記入してみて、いかがであっただろうか？

【住宅の負債】

マイナスだった世帯も少なくないと思われるが、住宅ローンを返済中の世帯では、特に多くなっていると考えられる。その理由の一つには、住宅ローンが借りやすくなったことが挙げられるかもしれない。

かつて、住宅金融公庫の返済期間は最長でも25年であったが、今やほとんどの金融機関が35年としている。また、融資限度額は物件価額の80％が上限だったが、今や自己資金が0でも全額を融資してもらえるようになった。借りやすくなったイコール、返しやすくなった訳ではないのだが…。ちなみに、秋田県の持ち家比率は47都道府県中、1位だ。

年齢別の「借入金のある世帯の割合と借入残高（表1参照）を見てみると、30・40・50代が突出し、70歳代になっても続いていることが分かる。

【3大借入金】

「借入の目的」（表2参照）を見てみると、住宅の比率が30～50代を中心に最も高い比率で、70歳代になっても続いている。深刻な問題だ…。続いて耐久消費財（※1参照）は殆どの世代で大きい。そして50代前後では教育費が大きくのしかかっているのが見て取れる。

●負債の分析と対策

では、これらのデータから何を学び、どう対処しなければならないのだろうか？住宅・耐久消費財・教育資金のいずれも、突如として出現するものではないし、ライフイベントの延長線上に必然的に見えてくるものだ。であれば、その準備と対策は事前に取ることが出来るはずである。

家計を健全に保ち、生涯の生活を安定したものにするために、少しでも早めの生活設計と準備を始めたいものだ。

こちら

保険と暮らしの相談センター

あなたの夢の実現へのお手伝い!!

●家計の見直し・生活設計
●住宅取得、住宅ローンの見直し
●保険加入・見直し（生命保険・損害保険）
●年金・老後資金準備
●相続・遺産分割

相談料は無料!!
納得いくまで相談できます。

お気軽にご相談ください。

total life support　募集代理店
株式会社
トータルライフサポート
〒010-0916　秋田市泉北3丁目17-22
●営業時間：9:30～19:00　●定休日：水曜日
TEL 018-827-7611
Fax 018-827-7610
URL http://tls-akita.co.jp

詳細はホームページでもご覧いただけます。

●家計の支出をチェック

貸借対照表の現状と将来支出が見えたところで、必要な準備も見えてくる。しかし、住宅や教育資金はその必要金額からしても、その全てをそれまでに貯め込むには無理もある。ローンや奨学金に頼らざるを得ない部分も考慮し、いつまでにいくら貯めるのかの目標設定が必要だ。それが分かれば、逆算的に毎月の積立額も見えてくる。

さて、皆さんの世帯では毎月の貯蓄額はどうなっているでしょうか…!?多くの世帯が「収入ー支出＝貯蓄」となっているようだが、これだとなかなか目標達成には届かないのが現実だ。

「収入ー貯蓄＝支出(生活費)」とならなければならないのだが…。実際に設定してみると、これが意外にも難しい。理屈は分かっていても、「そんなの現実的に無理だ」今の生活が、成り立たないという具合になる。

では、何もしなければどうなるのだろうか？

準備が出来ていなければ、マイホーム取得は全てをローンで組むことになってしまうし、教育資金は子供の進路そのものに影響を与えかねない…。そして、自動車や家電等の耐久消費財の買換えは、どこまで行ってもローンスパイラルが続いてしまう。そうならないためには、現状の家計チェックを行い、資金を捻出するための対策を講じなければならない。

●基本生活費とその他の生活費

先ずは「基本生活費」(別表1)への記入だ。これは世帯の状況に関係なく延々と継続するもので、ある意味生きていくための生活費と言ってもよい。一方「その他の生活費」は、家族構成や年齢などの要因で異なってくる。

記入の仕方は、その全ての項目を詳細にしなくとも、小計の部分を記入するだけでも良い。縦列の部分は毎月決まって出ていくものと、一時的に出ていくものや不定期のものを年間金額として記入し、右列の合計は「毎月×12ヶ月＋一時支出」を記入する。そして、全体を見渡してみると、改めて家計支出のバランスの問題点や、〝使い過ぎ〟と見て取れるものも発見できるかもしれない。また、頑張っている部分も、併せて見えてくるはずだ。

家計簿に記帳されている方もいるであろうが、予想以上に少ない気がする。付けていたとしても、予算立てや将来資金の準備に活かされているかというと、さらに少なくなる。いろんな家計簿を試したり、パソコンのソフトを使ってみたり、様々なチャレンジをしたにも拘らず、挫折してしまった方も少なくないはずだ。

私は、むしろそんな方には、いっそのこと無理をせず、過去の記録よりも先の支出を予算化することをお勧めしたい。もともと、家計簿は過去の記録が目的ではないはずで、将来に活かされるべきデータであることだ。今回、家計に関わっていないパパも、一緒に現状確認をする作業の中で支出の内容・金額に驚き、家計のやりくりに参加するきっかけとなるかもしれない。

●家計収支の見直しへ

問題が見えたところで、将来資金を何処からどうやって捻出するかを考えねばならないわけで、ここからが本題と言える。

無駄を排除し、将来資金の準備に回すことが必要であるが、それだけで問題は解決できない。節約にも限度があるし、簡単なことではないが、それぞれの支出が本当に必要なものなのか？物欲による支出なのか？を改めて考え、場合によっては生活スタイルのあり方自体も見直す必要があるかもしれない。

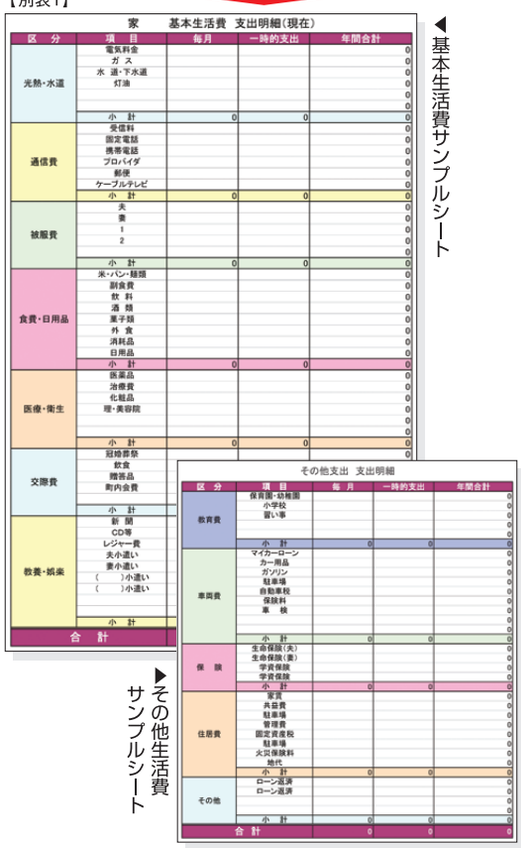
そして、忘れてはならないのは、収入そのものを上げる努力も必要であることだ。安易に勧めるものではないが、キャリアアップを目指しての転職や、妻の勤労収入も視野に入れた、総合的な対策を講じる必要がある。

さて、先ずは現状確認をスタートさせよう。

来月号は、一旦、予告したものの2か月遅れましたが、最近の風、雪、雨、雷などの自然の驚異による建物の災害も多くなっていることから、災害に備えるための火災保険の点検と補償内容について考えてみよう。

「基本生活費」、「その他生活費」サンプルのシートは下記ホームページのトップ画面下「お知らせ欄」からプリントできます。
http://tls-akita.co.jp/

【別表1】


家　基本生活費　支出明細(現在)

区分	項目	毎月	一時的支出	年間合計
光熱・水道	電気料金			0
	ガス			0
	水道・下水道			0
	灯油			0
				0
				0
	小計	0	0	0
通信費	受信料			0
	固定電話			0
	携帯電話			0
	プロバイダ			0
	郵便			0
	ケーブルテレビ			0
	小計	0	0	0
被服費	夫			0
	妻			0
	1			0
	2			0
				0
	小計	0	0	0
食費・日用品	米・パン・麺類			0
	副食費			0
	飲料			0
	酒類			0
	菓子類			0
	外食			0
	消耗品			0
	日用品			0
	小計	0	0	0
医療・衛生	医薬品			0
	治療費			0
	化粧品			0
	理・美容院			0
				0
				0
	小計	0	0	0
交際費	冠婚葬祭			0
	飲食			0
	贈答品			0
	町内会費			0
				0
	小計			
教養・娯楽	新聞			
	CD等			
	レジャー費			
	夫小遣い			
	妻小遣い			
	(　)小遣い			
	(　)小遣い			
	小計			
合計				

◀基本生活費サンプルシート

その他支出　支出明細

区分	項目	毎月	一時的支出	年間合計
教育費	保育園・幼稚園			0
	小学校			0
	習い事			0
				0
				0
	小計	0	0	0
車両費	マイカーローン			0
	カー用品			0
	ガソリン			0
	駐車場			0
	自動車税			0
	保険料			0
	車検			0
				0
	小計	0	0	0
保険	生命保険(夫)			0
	生命保険(妻)			0
	学資保険			0
	学資保険			0
	小計	0	0	0
住居費	家賃			0
	共益費			0
	駐車場			0
	管理費			0
	固定資産税			0
	駐車場			0
	火災保険料			0
	地代			0
	小計	0	0	0
その他	ローン返済			0
	ローン返済			0
				0
				0
	小計	0	0	0
合計		0	0	0

▶その他生活費サンプルシート

【図表1】借入金のある世帯の割合と借入残高(2010年/平成22年)

		借入金のある世帯の割合(%)	借入金のある世帯の借入金残高(万円)	住宅ローン残高(万円)
全体		39.7	1,313	1,094
年齢別	20歳代	31.5	1,034	965
	30歳代	53.6	1,432	1,314
	40歳代	58.5	1,434	1,279
	50歳代	51.4	1,220	981
	60歳代	29.1	1,212	845
	70歳代	16.6	1,281	1,005

資料:金融広報中央委員会「家計の金融行動に関する世論調査」[二人以上世帯調査](2010年/平成22年)

【図表2】借入の目的

		医療費や災害復旧資金	こどもの教育、結婚資金	住宅の取得または増改築などの資金	日常の生活資金	耐久消費財の購入資金	旅行、レジャーの資金	株式等金融資産への投資資金	土地・建物等の実物資産への投資資金	相続税対策の資金	その他
全体		3.1	12.9	62.7	12.9	24.0	1.3	0.5	5.2	1.2	12.6
世帯主の年齢別	20歳代	3.4	0.0	48.3	20.7	20.7	3.4	0.0	3.4	0.0	17.2
	30歳代	1.1	4.0	62.0	12.7	25.4	1.8	1.1	3.3	0.0	10.5
	40歳代	2.1	12.2	70.4	11.7	25.8	1.2	0.2	3.1	0.0	9.5
	50歳代	2.1	22.7	63.5	12.4	24.3	0.9	0.2	4.4	1.1	11.7
	60歳代	2.8	10.3	60.3	15.9	22.1	1.7	0.7	8.3	2.1	16.9
	70歳代	12.2	8.6	49.6	11.5	20.1	0.7	0.7	12.2	5.0	18.0

資料:金融広報中央委員会「家計の金融行動に関する世論調査」[二人以上世帯調査](2010年/平成22年)

※1 一般的に言う耐久消費財とは、1年以上長く、継続的に使われる消費財を指すもので、一例としては、「自動車、家電製品、パソコン、携帯電話、ピアノなどの楽器、家具」などが挙げられる。